

第6学年 道徳科学習指導案

令和2年9月23日(水) 第5校時
第6学年1組 31名
調布市立国領小学校
授業者 米田 紀子

研究主題

よりよい生き方についての考えを深める道徳授業
～ 自己を見つめ、他者と対話する学習を通して ～

- 1 主題名 友達のために B 友情、信頼
- 2 教材名 「コスモスの花」(出典『きみが いちばん ひかるとき』光村図書)
- 3 主題設定の理由(授業者の指導観)

(1) ねらいとする道徳的価値について

【第5学年及び第6学年】

友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。

友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、児童にとっては最も重要な人間関係の一つである。困ったときに助けてくれる、一緒に笑い合う、苦しい時に共に頑張れる、相談したら真剣に考えてくれる。そのような信頼できる友達がいるかどうか、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。しかし、高学年になると友達に対して複雑な感情を抱くようになり、友達を傷つけてしまうこともある。

本当に信頼できる友達とは、どのようなものなのか。性格や考え方の違いに関わらず、お互いに理解し合い、支え合える。そのような友達がいる安心感をもてることが、自分自身や友達を大切に、より良い人間関係を築きながら生きていく基盤になっていくと考える。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、友達に対して優しく、困っていたら声を掛けたり、手を差し伸べたりできる児童が多い。また、友達が大切であるということも理解している。ただ、友達との関係の深さや「友達」の捉え方は様々である。また、相手にどう思われるかを考えすぎて本当の気持ちを言えなかったり、友達との関係を作るために自分のキャラクターを作っていたり、バランスをとりながら学校生活を送っている児童もいる。そこで本時では、友達のために行動することが、互いに信頼し合う関係を築いていくことにつながると感じ取らせたい。

(3) 教材について

【教材の概要】

主人公の「ぼく」(玉木)には、北山という友達がいる。北山は何事にも積極的な「ぼく」とは対照的な、クラスでは目立つことがない存在である。まったくタイプの違う二人だが、気が合い、いつもいっしょに過ごしていた。

ある朝、コスモスを上手に生けた北山に対してクラスメートの関心が集まる。「ぼく」は普段、注目されることのない北山がみんなの関心を引いていることが、何となく気に入らない。目立つ存在となった北山に対して「北山なんて一。」と釈然としない思いを抱いてしまう。

昼休みになっても北山の周りには人が集まっていた。そのとき、「ぼく」の耳に北山を悪く言う声が聞こえてくる。先ほどの思いとは裏腹に「ぼく」は思わず「やめろよ一。」と声を出していた。

【教材分析】

場面の概要 (行番号)	ぼく (玉木) の内面	発問
①朝、北山が話しかけてくる (L 1～4)	<ul style="list-style-type: none"> ・まったく、のんびりしてるよ。 ・分からなかったのか。 ・しょうがないなあ、教えてやるか。 	
②北山について (L 5～12)	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと自分を出していけよ。 ・積極的になればいいのに。 	
③北山とぼくの関係について (L 12～15)	<ul style="list-style-type: none"> ・僕と北山は正反対だよな。 ・タイプは違うけど、なんか気が合うんだよな。 ・北山が仲良くできる友達はぼくだけだ。 ・ぼくのことを頼ってくれているのかな。 	
③田村がコスモスを生ける (L 16～22)	<ul style="list-style-type: none"> ・さて、宿題を教えてあげよう。 	
④北山がコスモスを生ける (L 23～30)	<ul style="list-style-type: none"> ・え！？北山、何やってんの？ ・北山がいつもと違う。 ・すごい！コスモスがきれいだ。 ・田村が生けたときと全然違う！ ・北山がこんなことができたなんて・・・。 	
⑤北山がみんなからほめられる (L 31～35)	<ul style="list-style-type: none"> ・そんなに騒ぐほどのことかよ。 ・こんなの大したことじゃないよ。 ・みんな大げさなんだよ。 ・花なんか、女子みたいじゃないか。 ・何だよ。北山も照れちゃってさ。 	
⑥女子から反論される (L 36～40)	<ul style="list-style-type: none"> ・何だよ、みんな北山の味方かよ。 ・ちょっと、からかっただけじゃないか。 ・ぼくが悪者みたいじゃないか。 ・北山、そんな目で見るとよ。ぼくが、かわいそうみたいじゃないか。 ・すごいのはわかってるよ！みんな騒ぎすぎなんだよ。 ・何でぼくが北山に心配されなきゃならないんだ。 	
⑦先生が来る (L 41～47)	<ul style="list-style-type: none"> ・先生も北山を褒めている。 ・みんな前で褒められてうらやましい。 	
⑧北山が生け花を習っていると分かる (L 47～52)	<ul style="list-style-type: none"> ・そんなこと知らなかった。 ・初めて聞いたよ。 ・生け花なんて、女のやることだよ。 	
⑨北山が目立つ存在になった (L 53～55)	<ul style="list-style-type: none"> ・何だよ、目立つ奴じゃなかったのに、みんなに注目されて。 ・ぼくの方が何でもできるのに。 ・生け花ができることが、そんなにすごいことか？ ・めずらしいだけだろ。 ・いつもぼくがいろいろ教えてあげているのに。 	<p>基本発問 ぼくが初めて抱いた「北山なんてー。」という気持ちには、どんな思いがあったでしょう。</p>
⑩昼休みの北山 (L 56～60)	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ北山のことでみんな盛り上がっている。 ・どうせぼくは関係ないし。 ・いつもそんなに周りとしやべらないのに大丈夫だろうか。 ・なんとなく話しかけづらいな。 	

⑪後ろから北山の悪口が聞こえてきた (L 6 1～6 7)	<ul style="list-style-type: none"> ・北山のこと？ ・北山が悪口を言われている。 ・顔にボールをぶつけるだって？ 	
⑫思わず声を出すぼく (L 6 8～6 9)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールをぶつけることはないじゃないか。 ・北山は何も悪いことはしていない。 ・北山がそんなことを言われるのはおかしい。 ・北山が傷つけられるのは嫌だ。 ・やっぱり北山は友達だ。 	中心発問 思わず「やめろよ。」と声を出したぼくの気持ちを考えましょう。

【教材活用の視点】

本教材には、児童と同じ年頃の主人公の友達に対する複雑な感情が描かれている。友達に対する憧れや妬みの気持ち、友達同士の力関係などに共感しながら、友達に対して複雑な思いを抱くこともあることをおさえる。そのような中で、主人公の「ぼく」が思わず「やめろよ。」と言ったことについて、なぜそのような行動に出たのかを考えることを通して、友達のために行動することの大切さや、自分は友達とどう関わっていききたいのか、ということについて考えさせたい。

4 研究主題にせまるための手だて

【教師が指導観を明確にもつ】

範読をする前に主な登場人物の関係性をおさえ、主人公の気持ちになって読むことを意識させることで、主人公の気持ちに寄り添って考えられるようにする。教材文を通して、時には友達に対して複雑な思いになることも認めつつ、いざというときには友達のために行動できることが、友情を深め、信頼し合える関係となっていくことに気付かせたい。

【自己を深く見つめさせる】（自己の内面との対話）

事前アンケートで、「友達を守るために行動できたことがあるか。」「友達に守ってもらったことがあるか。」ということについて考え、主題について意識させる。また、展開後段に教師の説話を行うことで、教材と児童の日常生活をつなげ、自己を振り返ることができるようにする。自己を深く見つめることで、これからの自分自身の生き方につなげていきたい。

【物事を多面的・多角的に考えさせる】（話し合い活動の充実）

中心発問では十分な話し合いを重ねる。「なぜそう思ったのか。」考えの根拠を問い、より深く考えさせたり、「この場合はどうなのか。」と違う角度から考えさせたりすることで、多様な考えを引き出していききたい。また、大事なキーワードに着目させたり、意見を分類しながら板書したりすることで、道徳的価値に迫っていけるようにする。

5 年間指導計画における位置づけ

○6月 B友情、信頼

主題名 友達を信じるとは 教材名 「ロレンゾの友達」

ねらい 友達を信じるとはどういうことかを考えさせ、相互の信頼の下に、互いの人格を尊重し、真の友情を築こうとする実践意欲と態度を育てる。

6 本時の指導

(1) ねらい

北山のために思わず「やめろよー。」と声を出した「ぼく」の気持ちを深く考える学習を通して、友達との友情を深め、互いに信頼し、仲良く助け合っていこうとする心情を育てる。

(2) 学習指導過程

	学習活動 (○基本発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応)	◇指導上の留意点 ★評価【評価方法】
導入	1 「友達を守るために行動できたことがありますか。」「友達に守ってもらったことがありますか。」という事前アンケートの結果を知る。 ○アンケートの結果を紹介します。 ・友達が悪口を言われていた時にかばった。 ・悩んでいる時に、相談にのってもらった。	◇発言はさせず教師がアンケート結果を紹介し、全体で共有する。
展開前段	2 教材「コスモスの花」を読んで話し合う。 ○「ぼく」が北山に初めて抱いた「北山なんてー。」という気持ちには、どんな思いがあったでしょう。 ・いつもは目立つ奴じゃないのに。 ・いつもぼくがいろいろ教えてあげているのに。 ・こんなことで注目されて悔しい。 ◎「ぼく」が、思わず「やめろよー。」と言ったときの気持ちを考えましょう。 ・北山が傷つけられるのは、嫌だ。 ・北山のことが、やっぱり大事だ。 ・北山は大切な友達だから、悪口を言われたくない。	◇教材提示前に「ぼく」と「北山」の関係をおさえ、「ぼく」に注目して読むよう指示する。 ◇間に留意し、臨場感ある教材提示に努める。 ◇多様な考えを分類して板書に位置付ける。 ◇「思わず」という言葉に着目させ、「やめろよー。」という言葉から、主人公の思いを多面的・多角的に考えさせる。 ◇ワークシートに自分の考えを書かせ、それをもとに少人数で話し合い、考えを深めさせる。 ◇少人数での話し合い中に机間指導し、主な発言をメモしてそれを板書する。 ◇付け足しがあれば発言させる。
展開後段	3 教師の体験談を聞く。	◇友達のために行動できなかった体験談をし、そのことから学んだことを伝えて、終末の学習へつなげる。
終末	4 自己を振り返り、これからの自分について考える。 ○これまでの自分を振り返りながら、今日の学習を通して考えたことを書きましょう。	★これから友達とどう関わっていきたいかということについて、自分なりの考えをもっているか。 【発言、ワークシート】

